

～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

月刊トピックス

女性支援に関する事や
情報などをご紹介します

科研費の一部基金化について

科研費はH23年度予算から、研究費の年度制約をなくすため、一部を基金化する制度改革が行われました。これにより、研究費が以下のように使い易くなりました。

- 研究の進展に合わせた研究費の前倒し使用が可能になります。
- 事前の繰越手続きなく、今年度未使用の研究費を次年度に使用することが可能になります。
- 年度をまたぐ物品調達が可能になります。
- 研究期間中であっても、育児休業等(産前産後の休暇・育児休業)の取得に伴い、研究を中断することができます。また、育児休業等の取得に応じて研究期間の延長も可能になります。

詳細は、
日本学術振興会の科研費ホームページをご覧ください。
<http://www.jps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>

くるみんマークとは？

くるみんマークとは、子育て支援などに積極的に取り組む「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣から認定を受けた企業・団体だけが、商品や広告につけることができるマークです。

このマークをつけることで、仕事と子育ての両立を支援する企業であることをアピールすることができます。大分大学は、今年7月15日に「子育てサポート企業」の認定を受け、この**くるみんマーク**をHP等に掲載しています。

くるみんの名前の由来……



一般公募により、赤ちゃんが大事に包まれる「おくるみ」、あるいは子供が優しく「くるまれている」というあたたかい印象と、「職場ぐるみ・会社ぐるみ」で子どもの育成や仕事と子育ての両立支援に取り組もうという意味から決定されました。



大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

全学研究推進機構 助教 福田 昌子さん

『 女性の時代到来!? 』

私が大学を卒業したのは、男女雇用機会均等法制定以前の、超氷河期という言葉すらない女子学生就職難の時代でした。大卒女性が職に就けるのは公務員か一部の専門職くらいで、ましてや大学院進学を希望しても歓迎されるはずもありません。幸いにも私の同級生(大部分が女性)のほとんどは、学部卒業後就職できました。大学の研究職に就いた人もいます。ですが、能力があっても、多くが結婚や子育てで仕事を辞めざるを得なくなりました。家庭は勿論大事ですが、女性の力を社会で活用できないなんてなんともつたいないことかと当時よく思ったものです。

時は流れて21世紀の今、やっと女性の時代がやって来たと感じています。東日本大震災が発生し、政治の低迷が続くなか、否が応でも誰も今後の日本のあり方や個人の生き方について考えたのではないのでしょうか。少子高齢化の時代、女性が活躍できなければ日本は成り立たないと思います。法的には、女性が働き続けるための整備が以前より進みました。あとは実行あるのみです。その後私の同級生達は、これまたほとんどが仕事に復帰し、子育て(なぜか子沢山が多い)しながら、自分の実情に合わせて遅く働いています。意志と柔軟性があればできないことはありません。近い将来、気付いたら男女ともに生きやすい日本になっていたという風景が出現することを期待します。その時には女性研究者の環境も大きく変わっていることでしょう。